

新医学系指针对応「情報公開文書」改訂フォーム

## 研究協力をお願い

昭和大学藤が丘病院消化器・一般外科では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

胃癌術後の短期・長期成績の調査とそのリスク因子の解析
<b>1. 研究の対象および研究対象期間</b> 2009年1月から2018年12月までに胃癌に対して手術を受けられた方
<b>2. 研究目的・方法</b> 胃癌は全世界の癌死亡の第2位の疾患です。腫瘍の完全切除が胃癌に対する唯一の根本治療であり、内視鏡的切除適応外の病変に対しては胃切除術の適応となることが本邦の胃癌治療ガイドラインに明記されています。手術手技の統一や周術期管理の標準化により胃切除は比較的安全な手術とされていますが、National Clinical DatabaseによるとClavian-Dindo分類grade3以上の合併症は7.3%、手術関連死亡率は1.6%と報告されています。短期成績（術後合併症の発生）は入院期間の延長や入院費用の増大に加え、術後化学療法導入の遅延もしくは中止の原因となるため、胃癌術後の予後因子の一つと報告されています。そのため、胃切除の際には腫瘍に対する根治性と手術の安全性を担保する必要があります。 本研究では昭和大学藤が丘病院消化器・一般外科において施行された胃癌に対する胃切除症例の臨床情報（背景、血液検査、生理検査、画像検査等）を収集し、術後合併症発生の有無のリスク因子と予後因子を解析するとともに、合併症の発生予防や予後因子の改善に有用な医療介入につき探索することを目的とした。 <b>研究期間</b> 2019年8月23日から2023年12月まで
<b>3. 研究に用いる試料・情報の種類</b> 情報：病歴、手術情報、術後合併症の発生状況 試料：血液、レントゲン・CT画像、内視鏡検査画像、手術で摘出した組織
<b>4. お問い合わせ先</b> 本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。 ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画

書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学藤が丘病院消化器・一般外科

職名：助教

研究責任者：内田恒之

電話番号：045-971-1151（内線 5464）